

雪渓の歩き方

雪渓関連用語

雪渓と雪田／積雪が残雪となって谷筋を埋めたものが雪渓。残雪が固くなって残ったものが雪田だ。

クレバス／氷河にできた割れ目だが、国内のクレバスと呼ばれるものは、おもに雪渓の傾斜が大きく変わるところや屈曲にできる割れ目をいう。

ラントクルフト／雪渓と岩や斜面との間にできるすきま。

スプーンカット／サンカブとも呼ばれる。日照によって雪渓や雪田の上に自然に形成される。スプーンですくいたようなデコボコ。雪渓上の重要なスタンスとなる。スノーブリッジ／雪渓が谷の両岸に渡り、橋をかけたように見えるもの。

ブロック／壊れた雪の塊。雪渓が流入していくとき、とけただけでなく塊となって崩壊するのがブロック崩壊。雪渓が崩壊して下に落ちる。雪圧が落ちるなどがブロック崩壊だ。

雪渓上のルートのとおり方



雪渓は両岸と真ん中からとけていく傾向がある。したがって、通常は雪渓の左右から3分の1ないし4分の1程度のところを歩くようにしよう



雪渓上の落石は音が聞こえず、目で観察していないと発見が遅れる



ラントクルフトは雪渓の下で大きく広がっている場合もある



雪渓は少しずつ静かにとけるとは限らない。ブロックと重なって激しく崩壊することもある

雪渓上の構造



雪渓は視界が利かず危険だ。冬の間の豊富な積雪が残雪となって谷筋を埋めたものが雪渓だ。真夏でも白い雪の上を歩く爽快感は独特のものがあり楽しい。安定して変わらないように見える雪渓だが、雨や日照でとけ、日々変化する雪渓は特有の難しさと危険性があり、登下には十分な知識と注意が必要だ。雪渓が全面的に谷を埋め安定している時期には、多くの場合、上部に雪庇やブロックが残っており、その崩壊にともなうブロック雪崩への注意が必要だ。最も注意すべきなのは、盛夏となって雪渓そのものが薄くなり崩壊が始まるころだ。雪渓の薄い厚いは外からはわからない。崩れてその薄さに驚かされることもある。雪渓は通常、真ん中と左右からとけるといわれ、ルートファインディングではその部分を避けることも、クレバスやラントクルフトへの転落にも配慮する。また、雪渓の上では落石の音が響かない。突然、目の前に現われる落石に驚かされることもある。たえず周囲に目を配り注意することだ。とくにガスにおおわれた雪渓は視界が利かず危険だ。